

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年 9月 6日 (金)

2 確認箇所

2号機タービン建屋

3 確認項目

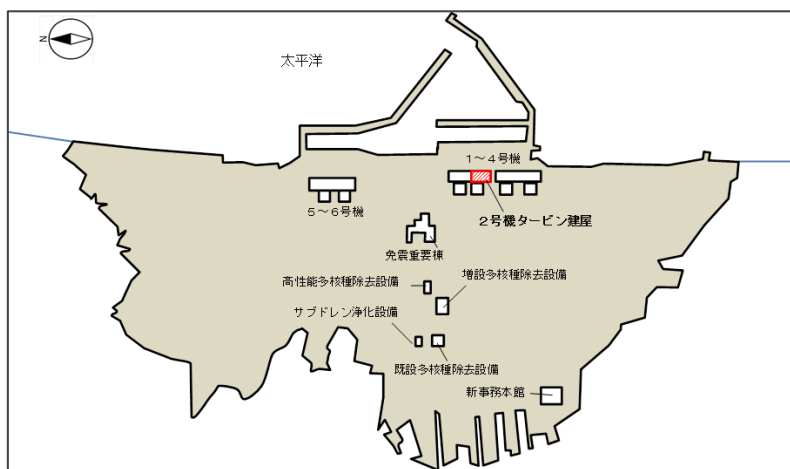
2号機窒素封入設備における運転上の制限逸脱の対策状況

4 確認結果の概要

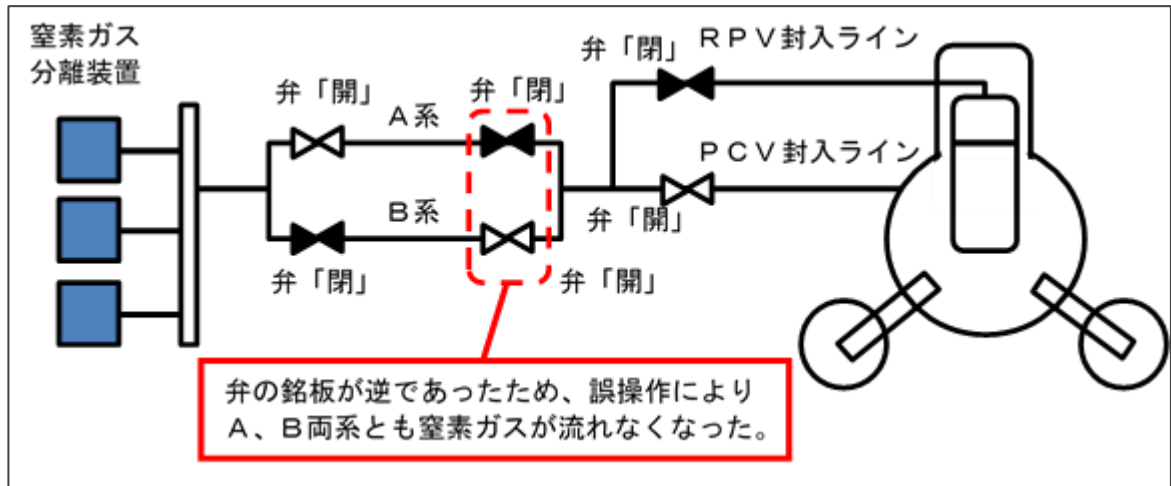
原子炉格納容器（PCV）内の不活性雰囲気を維持するために、窒素封入設備を用いて、1～3号機原子炉格納容器内に窒素を充填しているが、窒素封入設備の信頼性向上を目的として、1～3号機原子炉压力容器封入配管の二重化等が実施されている。

8月6日、2号機の既設原子炉压力容器（RPV）配管から新設RPV配管への切替を実施するために必要な安全措置として、窒素ガスの封入をRPV配管からPCV配管へ切り替えたところ、操作する弁の銘板に相違があったため、意図しない系統構成になり、両系統からの窒素封入量が $0\text{Nm}^3/\text{h}$ となる事象（図2）が発生した。その後、弁の銘板の修正等の対策が実施されたことから、対策の実施状況を確認した。

- ・ 銘板に相違があった弁については銘板の修正がなされており、さらに、弁操作時に配管と弁の整合確認が容易になるように、視認性の良い箇所に配管の識別標示が取り付けられていた。（写真1）
- ・ 東京電力によると、その他の設備についても配管と弁の整合確認を行うとともに、今後は弁を操作する前に弁と配管の識別を確認してから操作を実施するよう対策を講じたとのことであった。



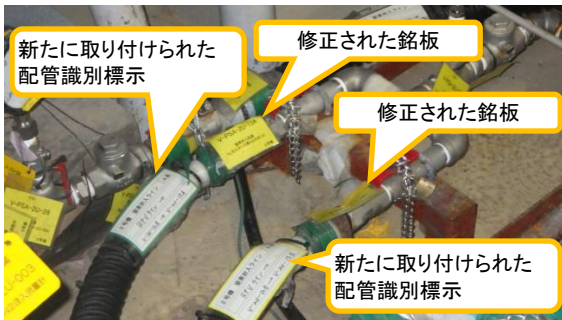
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 事象発生直後の状況イメージ図



(写真1-1)
現場の状況
(黄丸部分が弁の銘板に相違があった箇所)



(写真1-2)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。